

2018年度事業報告書

2018年4月1日 から 2019年3月31日まで

特定非営利活動法人 まつもと子ども留学基金

1 事業の成果

- ・ 原発事故による被ばくを避けるために、女子高校生2名が寮で共同生活を送り、公立高校へ通学した。義務教育である中学生が卒業し、高校生のための生活になったことでサポートの内容が変わり、新たな課題も生じたため、スタッフ体制や支援内容などの見直しを行った。
- ・ 通年保養と冬の保養を実施した。冬の保養では新たなプログラムを企画した。被災地からの参加者と長野県への避難者がスキーをしながら交流し、好評だった。被災地域に住む子どもと親に参加してもらい、放射能の影響の低い地域で一定期間過ごすという目的が達成された。親子たちは、豊かな自然環境の中で、安心してのびのびと体を動かして、被ばくを低減して心身をリフレッシュすることができた。また、汚染地から物理的に離れることで汚染の状況について客観的に考えることができ、被災地では孤立しがちな保護者同士の交流親睦及び放射能影響地域外の支援者との繋がる機会を作ることができた。
- ・ 2017年の春に政府による借上げ住宅支援の打ち切りが進み、自主避難者のサポートを民間が行う需要が高まってから、当法人も長野県外から松本市内に移住をした自主避難家族のサポートを行なってきた。当法人の活動へ参加したり、保護者不在時に子どもを預かるなどの子育てサポートや、留学生やスタッフとの交流によって孤立することがないように配慮を行った。また、保養参加者との交流の場を持ち、被災地の状況や移住生活についての情報交換の機会を作った。また、現在被災地において、移住について悩む被災者から寄せられる相談に乗っている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	A 当該事業の実施日時 B 当該事業の実施場所 C 従事者の人数	D 受益対象者の範囲 E 人数	事業費の金額 (単位:千円)
1、留学事業	① 原発事故による影響からの避難先として、健全な生活環境を提供するための寮の運営	A 通年事業 B 松本市四賀地区 C 20名	D 東日本大震災により被災した子ども E 4名	12,213
2、体験活動事業	① 通年保養	A 通年 ① 春季 4/6~4/8 ② GW 4/27~5/6 ③ 夏季 6/5~6/8 8/2~8/7 ④ 秋季 10/21~10/27 11/19~11/22 ⑤ 冬季	D 本活動に関心のある被災地の市民及び子ども E ① 4名 ② 3 家族 9 名 ③ 2 家族 6 名 ④ 2 家族 4 名 ⑤ 1 家族 2 名 計 25 名	125

		2/8～2/11 B 松本市、安曇野市 C 20名		
	② 冬の保養「2018 冬の信州リフレッシュ保養」	A 12/22～25 B 安曇野・鹿島槍スキー場、北信地域 C 10名	D 本活動に関心のある被災地の市民・子どもと避難した市民・子ども、寮生 E 36名	1,013
3、里山地域の保全に関する事業	① 敷地内及び周辺環境整備	A 通年 B 松本四賀地区 C 20名	D 寮生及び地域住民 E 10名	2
4、調査研究、講師派遣事業	本取り組みについての講演会及び現地説明会活動及び他団体の取り組みについて調査研究 a. 講演会活動 ・ビハーラ長野（6月） ・ハッピーアイランド（11月） ・パルシステム東京（3月2日） b. 保養相談会 ・6月2日（いわき市） ・6月3日（二本松市） ・11月11日（福島市） c. 調査研究 ・11月11日（福島市「ほよっと福島交流会」） ・2月16日～17日（京都府・うけいれ全国交流会） ・3月「アースウォーカーズドイツプログラム報告会」	A 適時 B 東京、福島、長野、京都 C 20名	D 不特定多数 E 300名	145

(2) その他の事業（特定非営利活動に係る事業以外の事業）

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	事業費の金額 (単位：千円)
物品販売事業	実施なし	実施なし	